人とともに　地域とともに
国立大学法人
島根大学

古代出雲 IX 文化フォーラム

古代出雲から中世へ
～日本海を動く人とモノ～

Forum on Ancient Izumo Culture

令和4年3月5日(土)

◉第1部：シンポジウム　◉第2部：島根大学の取組

オンライン開催

- 開会挨拶 …… (13：30～13：40)
- 第１部　シンポジウム …… (13：40～15：25)
- 第２部　島根大学の取組 …… (15：25～15：40)
- 閉会挨拶 …… (15：40～15：45)

稲佐の浜

服部泰直（はっとりやすなお）
島根大学長

古代出雲文化フォーラムⅨ挨拶

本日は、古代出雲文化フォーラムⅨにご参加いただき、誠にありがとうございます。

この「古代出雲文化フォーラム」は、古事記編纂 1300 年に当たる平成24年度に東京都において開催して以来全国各地で開催を続け、昨年度はオンデマンド方式で講演を配信させていただきました。9回目となる今年度は、初めて島根県内において開催予定としておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面での開催については中止させていただきます。対面参加を希望されていた皆様には、大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。なお、オンライン同時配信につきましては予定通り行い、あわせて後日オンデマンド配信もいたしますので、ぜひ最後までご覧いただけますと幸いです。また、開催にあたり、ご共催・ご後援くださいました県内自治体をはじめ、関係者の皆様にこの場をお借りして、御礼申し上げます。

第一部では、3名の専門家による講演を行います。今回のテーマは古代出雲から中世へ～日本海を動く人とモノ～。古代から中世にかけての時代、日本海の大海原を舞台に出雲から世界へと国の枠を越えて人とモノが躍動していました。日本海交易の拠点だった出雲と各地とのグローバルな交流史について、国内外の「海商」たちの動きや中世になり発展した海水運、島根県内で出土した大陸からの陶磁器などから考えていきます。

第二部では、島根大学の特色ある教育・研究として、先端金属素材グローバル拠点の創出に関する取り組みについてご紹介いたします。

第一部、第二部を通して本学の教育・研究についてよりご理解を深めていただき、島根大学を地域の皆様にとってより開かれた存在として捉えていただければ、大変幸甚に存じます。ご期待いただくとともに、どうぞ最後までお楽しみください。

本学は今後も地域の皆様をはじめ、各方面からいただいたご支援・ご期待にそえるよう、より一層地域と一体化した教育・研究活動の推進による地域創生への貢献の実現に邁進していく所存でございます。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

古代出雲文化フォーラム開催実績

第１回	東京都千代田区	～神話・青銅器・たたら～
第２回	広島県広島市	～古代出雲文化と現代の製鉄へつながる“たたら”へのいざない～
第３回	大阪府大阪市	～「くにびき神話」と古代出雲・伯耆の成り立ち～
第４回	福岡県太宰府市	～古代の出雲と九州，そして東アジア～
第５回	東京都千代田区	～『出雲国風土記』と古代の道～
第６回	愛知県名古屋市	～古代出雲と東海～
第７回	岡山県岡山市	～古代出雲と吉備～
第８回	オンデマンド配信	～東アジアと出雲～

古代出雲から中世へ

～日本海を動く人とモノ～

第１部　シンポジウム（13：40～15：25）

講演 1

日本海を往来する海商たち

13：40～14：10

吉永壮志（よしながたけし）
島根県教育庁文化財課 企画員

日本の古代から中世にかけての時期、海外との窓口といえば大宰府や博多(いずれも現在の福岡県)がまず思い浮かぶであろう。たしかにそれらの地域は、海の商人である「海商」の拠点として機能し、そこに多くの人が集まり、たくさんの情報がもたらされ、そこでさまざまなモノが取り引きされた。しかし、大宰府や博多のある九州北部だけでなく、潮の干満によって形成される、天然の良港ともいうべきラグーン(潟湖)が多く存在する日本海地域も、海上交通に適した地域で、多くの船が往来していたと考えられる。9世紀以降、日本海横断航路を利用して出雲国・隠岐国といった山陰地域に来着するようになった渤海使(現在の中国東北部・朝鮮半島北部に成立した国から派遣された使者)は、「使」と称しながらも、実態として「海商」としての性格が色濃く、時の右大臣であった藤原緒嗣もそのように認識していた(『類聚国史』巻 194、天長3年(826)3月戊辰朔条)。また、中国宋の「海商」も、京にいる皇族や有力貴族との取り引きを求め、大宰府・博多と日本海地域における京の玄関口である若狭国・越前国敦賀(いずれも現在の福井県）とを結ぶ航路としての日本海地域を往来した。さらに、隠岐国は国外の「海商」にとって日本海地域の海上交通のランドマーク(目印)として重要な役割を果たしたのみならず、国内の「海商」たちが海産物を求めて頻繁に往来する地でもあった。

このような国内外の「海商」たちの動きにスポットをあて、これまであまり顧みられることのなかった古代から中世にかけての日本海地域の海上交通の様子を概観してみたい。

講演 3

日本海を動いたモノ

14：55～15：25

守岡正司（もりおかしょうじ）
島根県立古代出雲歴史博物館 調整監

出雲は古代以来、日本海交易の拠点の1つであり、「古代出雲」と言われるゆえんである。考古学的には弥生時代や古墳時代の調査研究は盛んで、出雲では『出雲国風土記』があり、古代の調査研究も進められている。

一方、古代から中世にかけては社会が大きく変化している。島根県ではその変革期の考古学的な調査研究は少ないが、近年、この時期の発掘調査が盛んになり、研究も進んできた。

この時期を代表する出土品に貿易陶磁器がある。この時期の貿易陶磁器とは、中国大陸や朝鮮半島で生産された陶磁器で、日本に持ち込まれたモノを指している。代表的なモノに白磁や青磁等があり、時代により窯跡や形状が変化している。貿易陶磁器の特徴としては、生産窯がわかる場合があり、生産地と消費地を結びつけることができる。中継地である港や市場を経由し、最終的には館跡や役所跡で消費される。また、貿易陶磁器は、日本だけでなく、中国大陸や東南アジア、西アジア等でも出土し、同じ陶磁器が広域に流通しており、各地域で陶磁器の中で受け入れたモノ、受け入れなかったモノがあり、好みや流行なども知ることができる。

9世紀から11世紀の越州窯系青磁等の初期貿易陶磁器は、松江市出雲国府跡や浜田市石見国府関連遺跡群である古市遺跡や横路遺跡等の古代の役所であった国府周辺域などの限られた遺跡からしか確認されていない。その後、11世紀後半から12世紀の白磁等が上記の遺跡の他、益田市沖手遺跡、出雲市青木遺跡で出土し、流通量が格段に増加し、遺跡数も増加する。さらに、12世紀後半から13世紀前半には龍泉窯系青磁等の青磁の時代に変化する。この時期に新たに出現する遺跡、衰退する遺跡があり、社会的にも変動があったと考えられる。

講演 2

中世西日本海 水運の展開

14：10〜14：40

長谷川（はせがわ） 博（ひろ） 史（し）
島根大学教育学部 教授

太古の昔から、日本海には「豊かな交流」が存在した。ただし、それがどの程度の頻度であったのか、またどのような意味で構造化していたのか、ということになると、時代によってかなりの違いがみられた。中世は、列島内部の物流において海路の占める比重が飛躍的に高まり、廻船が広く展開する時代となっただけでなく、大陸との交流が、規模と頻度において大きな拡大をみせた時代である。

中世の西日本海（朝鮮半島南東沿岸・玄界灘から若狭国小浜におよぶ海域）は、京都を含む西日本各地と大陸を結ぶ経路として、位置関係や海流、対馬・見島・隠岐島など島嶼の存在など、すぐれた地理的条件を有していたが、天候や船舶技術発達過程における規制を受け、また陸路が優越する律令国家の交通体系にも強い影響を受け、広域経済や制度的条件からの影響を、独特な形で反映してきた歴史的経緯がある。重要であるにもかかわらず、未解明なことの多い海域でもある。

11世紀以来の博多唐房の重要性を背景として、益田地域（益田市）には11世紀から貿易陶磁の流入がみられた。また島根半島周辺は、この海域の中央部に位置するとともに、中海・宍道湖・斐伊川水系の広大な内水面がひろがり、隠岐島とも海路でつながる要衝に位置していた。なかでも美保関（松江市）は、この海域を代表する重要港湾となった。それは、各地域間に形成された廻船ルートの簇生によるところが大きい。13〜15世紀の益田地域に持ち込まれた石材群も、そのことをよく示している。

中世における山陰沖の海域は、近世初頭に向けて、次第に活発で多彩な物流・交流の舞台へと変貌を遂げていく。その様相を、主として文献史料に拠りながら概観してみたい。

第２部　島根大学の取組（15：25〜15：40）

島根大学次世代たたら協創センター

NEXTA
Next Generation Tatara Co-Creation Centre

古代出雲 IX 文化フォーラム
Forum on Ancient Izumo Culture

荒（あら） 河（かわ） 一（かず） 渡（と）
次世代たたら協創センター 副センター長 / 教授

次世代たたら協創センターは、先端金属素材の国際的研究拠点を目指し、オックスフォード大学教授で耐熱合金の世界的権威であるロジャー・リード氏をセンター長に迎えて、地域企業等と連携した共同研究、および金属材料分野における高度人材育成を進めています。

沖手遺跡出土青磁
（写真提供：島根県立古代出雲歴史博物館）

プログラム

沖手遺跡柱穴群
（写真提供：益田市教育委員会）

伯耆国河村郡東郷荘下地中分絵図
（東京大学史料編纂所所蔵）の一部分

開会挨拶　**服部泰直**
島根大学長

第１部　シンポジウム（13：40〜15：25）

講演1　日本海を往来する海商たち 13：40 ～ 14：10

吉永壮志（よしながたけし）　島根県教育庁文化財課 企画員

1980年山口県生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（文学）。専門は日本古代史。福井県立若狭歴史民俗資料館（現福井県立若狭歴史博物館）文化財調査員、島根県立古代出雲歴史博物館学芸員などを経て、現職。論文「古代若狭と膳臣」『続日本紀と古代社会』塙書房（2014年）、「古代西日本海地域の水上交通」『ヒストリア』271（2018年）など。

講演2　中世西日本海水運の展開 14：10 ～ 14：40

長谷川博史（はせがわひろし）　島根大学教育学部 教授

1965年島根県生まれ。広島大学大学院文学研究科博士課程後期修了。博士（文学）。専門は日本中世史。主要著書『戦国大名尼子氏の研究』吉川弘文館（2000年）、『松江市ふるさと文庫15 中世水運と松江』松江市（2013年）、『列島の戦国史3 大内氏の興亡と西日本社会』吉川弘文館（2020年）など。

休　憩

講演3　日本海を動いたモノ 14：55 ～ 15：25

守岡正司（もりおかしょうじ）　島根県立古代出雲歴史博物館 調整監

1969年京都府生まれ。島根大学法文学部卒業。専門は考古学。「富田城周辺の遺跡から出土した貿易陶磁」『貿易陶磁研究』№36（2016年）など。

第２部　島根大学の取組（15：25〜15：40）

島根大学次世代たたら協創センター

荒河一渡（あらかわかずと）　副センター長／教授

石原美和（いしはらみわ）　フリーアナウンサー

世界の文明発祥の地は、川や海の近くに位置します。海に面し、とりわけ中国大陸、朝鮮半島に近い出雲国は、早い時期から東アジアとの交流があり、それらの文明の影響を受けて利益がもたらされ、発展していたと思われます。人々の交流が進むことはモノの移動が盛んになることに繋がりますが、交通機関の発達、交流の範囲が広がったことによってウイルスの世界的な感染スピードが速くなっていると実感するこの頃です。古代から中世にかけても航海技術の発達があったことでしょう。それが東アジアとの貿易、外交にどう影響していったのか。プラス面だけでなくマイナス面もあったはず。今回のフォーラムが探究心を高めてくれることと思います。

古代出雲文化フォーラムIX

古代出雲から中世へ
～日本海を動く人とモノ～

Forum on Ancient Izumo Culture

【主　催】国立大学法人 島根大学

【共　催】島根県・島根県教育委員会・松江市・浜田市・出雲市・益田市・雲南市・奥出雲町・飯南町

【後　援】文化庁・安来市・TSKさんいん中央テレビ・山陰中央新報社・BSS山陰放送・日本海テレビ
山陰ケーブルビジョン・株式会社山陰合同銀行

お問い合わせ
島根大学企画部企画広報課　TEL 0852-32-6603
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 E-mail：forum@office.shimane-u.ac.jp